

新作 あわじ島オニオングラタンバーガー 全国2位獲得



▲受賞のあわじ島オニオングラタンバーガー

日本最大のご当地バーガーの祭典「とっとりバーガーフェスタ」で「あわじ島オニオングラタンバーガー」が2位に輝きました。昨年1位を獲得したあわじ島オニオンビーフバーガーに続いての受賞です。

淡路島たまねぎや淡路島牛乳、淡路鶏、淡路牛など、南あわじの豊富な食材を使った、あわじ島オニオングラタンバーガーは、「道の駅うずしお」と「うずの丘大鳴門橋記念館」にあるバーガーショップ「淡路島オニオンキッチン」が連覇をめざして開発した新作です。祭典には13府県から30団体が出店して2万6千人が来場。審査は来場者の一般投票と審査員票で選ばれるなか、オニオ



▲市役所で11月14日受賞報告が行われました

ングラタンバーガーは一般投票で1位の票を獲得しました。運営スタッフは「美味しさが来場者の多くの人に認められた証。来年も新たなバーガーを開発して1位を奪回したい」と意気込みを話しています。

社会を明るくする運動 作文コンテスト表彰式



▲受賞者による作文発表

社会を明るくする運動の作文コンテスト表彰式が11月15日、

西淡公民館で行われました。市内小学生の作文378点の中から優秀作品16点が選ばれ、作文を発表。小学校の部で最優秀賞の小森羽純さんは、戦争の悲惨さを祖母から聞いた「私たちがもつと戦争に心をもち、争いの無い平和な社会にしよう」と世界に問いかけていかなければならない」と発表しました。

▽優秀賞 横山 凌輝 (広田) ▽佳作 江本 彩乃 (北阿万)、榎本 茉紘 (神代)、中野 愛望 (阿万)、森 遼 (西淡志知)、山崎 遥 (松帆)、野田 真央 (沼島)、長谷 野花 (榎原) ▽特別賞 文原 凜果 (俊文)、藤川 宗真 (西淡志知) ◆中学校の部入賞者※敬称略 ▽優秀賞 引田 真雪 (三原) ▽優秀賞 一ノ木 淳也 (西淡) ▽佳作 有働 斗志一 (南淡)、坂 玲奈 (三原)

吉備国際大学からのお知らせ

◆第3回「健康増進」市民シンポジウム・昆布の健康増進効果(無料)

▽日時 12月9日(火) ①午後1時30分 ②午後3時10分

▽場所 吉備国際大学地域創成農学部大講義室

▽内容 ①昆布は健康を増進します ②美味しい昆布のお話 演者 ①金沢和樹氏(吉備国際大学地域創成農学部教授) ②森伸樹氏(株式会社小倉屋山本食品工場長) 園地連携センター

◆心のストレスに対処する

去る8月29日(金)南あわじ志知キャンパスにて開催した地域ミニシンポジウムで、発達障がい児支援の現状と課題についてお話しして頂いた吉備国際大学心理相談室長の渡辺です。

人は様々なストレスを日々受けて生活しています。そのストレスが心の問題を引き起こす程大きくならないよう、意識的、無意識的に日々少しずつ対処しながら生活しています。ストレスへの対処としてはストレスの原因となる問題を解決する(テスト勉強を真面目

にするなど)こと、ストレスの状況に対する見方や考え方を改めて心理的負担を少なくする(今度のテストが出来なくてもまだチャンスはあると考えるなど)こと、ストレスを感情的に発散する(カラオケに行つて気分を発散するなど)こと等が知られています。これらはどれか一つをたくさんするということよりは、どれも少しずつおこなうことでストレスを高めないようにすることが有効と言えそうです。ただし、例えに示したテストのようにいずれ乗り越えなければならぬストレスに対しては、原因となる問題を解決することが必要なので、これを中心に対処しながら、見方や考え方を考える、気晴らしにストレスの感情的発散をおこなう、ということが適切なように思われます。

◆学食、事務室休業期間

年末年始の学生食堂の休業期間は平成26年12月25日(木)〜平成27年1月7日(水)までとなっておりますのでよろしくお願ひします。なお、事務室は平成26年12月27日(土)〜平成27年1月4日(日)まで閉めますのでよろしくお願ひします。

☎キャンパス事務室 42・4700

ふれあい市長室

20年、30年先を見据えて

南あわじ市長 中田勝久

本年度の南あわじ市総合防災訓練を10月26日(日)に実施いたしました。今回は三原志知小学校をメイン会場として、各地区で約9000名の方々にご参加をいただきました。ご苦勞様でした。また、防災・減災対策につきましましては11月11日に、兵庫県井戸知事とともに、7月に引き続き南海トラフ巨大地震津波対策の推進等について西村国土交通副大臣をはじめ、国交省、農水省各幹部の方々に強く要請をしてまいりました。ハード・ソフト対策については、国・県と

の強力な連携が必要となります。今後も引き続き強力に要請してまいります。市民の皆さん方におかれましても、防災訓練等により、防災意識を常に持っていただきますようお願い申し上げます。

さて先日、元総務大臣で日本創成会議座長の増田寛也氏のお話しをうかがう機会がありました。本年5月、日本創成会議：人口減少問題検討分科会が発表した全国市区町村別の将来推計人口については以前も少し触れましたが、南あわじ市でも都市への人口移動が止まらない場合、2040年に人口が3万1551人になるという厳しいものでした。国におきましても、まち・ひと・しごと創生本部を設置し、統合的な施策の推進をはかるべく取組んでいただいておりますが、少子高齢化対策につきましては今すぐに子どもの数が増えた仮定しても、20年、30年先にしかその成果は出てきません。つまり、すぐに対策を

行つても、今後何十年かの期間には人口減少傾向が続くこととなります。本市の少子対策につきましては平成17年の合併以降、積極的な取組みを進めてきましたが、なかなか思うような成果が表れていません。少しは人口減少傾向が緩やかになるなど歯止めがかかっておりますが、今後、新しい施策も積極的に検討していく必要があります。

師走に入り、市役所におきましては来年度予算策定作業に拍車がかかってまいりました。市民の皆さんにおかれましても何かと慌ただしくなっておりますこと存じますが、インフルエンザなど、健康に留意されますとともに、施策へのより一層のご理解・ご協力をお願い申し上げます。



▲総合防災訓練でなでしこ分団により行われた応急訓練の様子



▲ゆめらんどうかい(10月25日開催)

「食と文化の市民まつり」開催

快晴の秋空の10月19日、第8回を迎える「南あわじ食と文化の市民まつり」が淡路ふれあい公園で開催されました。

芝生広場の特設ステージでは市内4中学校吹奏楽部の合同演奏をはじめ、文化芸能団体の郷土芸能、保育園児の歌やダンスなどが披露され、来場者から惜しみない拍手が送られました。また、淡路島ブランドの食のファンづくりと地域の活性化をめざして、地元の新鮮野菜の直売や、特産品、加工品などを販売する「食の市」も開催。淡路ビーフや淡路手延べ素麺の振る舞いには、長蛇の列ができて大勢の人で賑わいました。



南あわじ食と文化の市民まつり



▲ステージイベントや、食の市、振る舞いなど、多くの人が食と文化を堪能して賑わった市民まつり